

JICA TOHOKU

独立行政法人国際協力機構

JICA × AOMORI

— 信頼で青森と世界をつなぐ —

JICA青森デスク

Phone 080-3140-2129

E-mail jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp

official website <https://www.jica.go.jp>

Address 〒030-0803 青森県青森市安方1丁目1-40
青森県観光物産館アスパム2階
(公社)青森県観光国際交流機構



【民間連携事業】<フィリピン> ニンニクの特産地イロコスノルテ州の畑で灌水作業



JICA東北
ホームページ



Facebook



Instagram



2026.4.1

研修員受入事業

JICA東北では、東北地方の持つノウハウを活用し、開発途上国で必要とされている知識・技術を伝えて各国の課題解決に役立ててもらおうことを目指し、関連の政府機関・自治体・企業・大学等の協力を得て研修員受入事業を行っています。参加者は、概ね政府の行政官や技術者。他にもビジネスや学術界の中堅リーダーなどが参加しています。

◆研修員受入事業(短期)〈2026年度計画〉:東北センター所管分

教育(11名)

教員養成課程のアップグレード(教師が変われば未来が変わる)(弘前大学)

畜産(10名)

SDGsに配慮した包括的な畜産振興の取り組み(家畜改良センター:奥羽牧場)

◆JICA留学生※(14名:主に保健学、バイオ、機械、産業、電気)

弘前大学(1名)

SDGsグローバルリーダー:1名(インドネシア)

八戸工業高等専門学校(13名)

円借款:13名(タイ)

※受入期間が1年以上の研修員で、日本の大学院の修士/博士課程を通じ、母国の開発に寄与するための総合的かつ高度な技術や知識の習得を目指しています。



【民間連携事業】<青森県青森市> 青森商工会議所にてセミナー実施

市民参加協力

JICAは市民をはじめ、民間企業、NGO、自治体などとの協力のもと、開発途上国で幅広い活動を行っています。国内においても、全国に拠点を置き、地域の特性を生かした、国際協力の事業を展開しています。

◆ ボランティア事業

◆ JICA海外協力隊

※2026年4月1日現在

派遣中隊員(15名)			
派遣国	職種	派遣国	職種
ブラジル	日本語教育	ベトナム	障害児・者支援
マラウイ	小学校教育	ネパール	青少年活動
アルゼンチン	相撲	フィリピン	防災・災害対策
マラウイ	障害児・者支援	ブラジル	障害児・者支援
ケニア	青少年活動	チュニジア	青少年活動
タイ	陶磁器	パラグアイ	看護師
ベナン	野球	モンゴル	コミュニティ開発
ソロモン	看護師		

※県内の各自治体に表敬訪問に行った隊員(未表敬者も含む)

派遣中含む累積隊員数：560名

※出身地が青森県の隊員

◆ 開発教育支援

◆ 開発教育(国際理解教育)支援事業2025年度実績

国際協力出前講座(実施:3件 受講者数:1,092名)

青森県立三沢高等学校(222名)

青森県立三本木高等学校(420名)

青森市立浪岡中学校(450名)



【民間連携事業】<フィリピン>
現地三越にてアンケート調査



【民間連携事業】<フィリピン>
温度設定の説明を実施

◆民間連携事業

◆中小企業・SDGsビジネス支援事業[JICA Biz] (実施中)

株式会社たから(三戸郡田子町)

<フィリピン>黒ニンニクバリューチェーン普及・実証・ビジネス化事業
実施期間(2023.11-2026.8)

実施中含む累積採択案件数：5件 (2014年以降)

◆草の根技術協力事業

◆草の根技術協力事業(2025年度実績)

北里大学獣医学部(十和田市)

<ミャンマー>ミャンマー酪農生産性向上プロジェクト(2019年度採択案件)

国立大学法人弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター(弘前市)

<ベトナム>弘前大学モデルを応用した「地域共創型 QOL 健診」の自立的運営体制構築事業
(2025年度採択案件)

公立大学法人青森県立保健大学(青森市)

<ラオス>住民の個別性に配慮した母と子の「最初の1000日」における食事・栄養改善支援
(2025年度採択案件)

実施中含む累積採択案件数：7件 (2002年以降)

◆連携協力に関する覚書

株式会社青森みちのく銀行

業務連携・協力に関する覚書 締結日：2017年4月21日

◆国際協力機構債券(JICA債)

投資表明

青い森信用金庫、公益財団法人青森県市町村振興協会、外ヶ浜町

詳しくはコチラ

